

令和7年度

菰野町教育委員会

事務事業点検及び評価報告書

令和8年8月

菰野町教育委員会

目 次

I	令和7年度点検及び評価実施方針	1
1	趣旨	
2	点検及び評価の対象	
3	点検及び評価の方法	
II	教育委員会の運営状況	
1	教育委員会	2
2	令和7年度菰野町教育方針	4
3	事務局体制	4
III	事務事業の執行状況	
1	学校教育	
(1)	確かな学力を育む教育の推進	5
①	主体的・対話的で深い学びの実現	5
②	特別支援教育の充実	6
③	グローバル教育の推進	6
④	ICTを活用した授業の充実	7
⑤	キャリア教育の推進	7
⑥	幼児教育の充実	7
(2)	豊かな人間性を育む教育の推進	8
①	人権教育・道徳教育の充実	8
②	安心して学べる学校づくり	8
③	読書活動の充実	9
④	郷土教育の推進	10
(3)	健やかな体を育む教育の推進	10
①	健康教育の充実	10
②	体力の向上	10
③	食育の推進	11
(4)	信頼される学校づくり	11
①	地域とともにある学校づくりの推進	11
②	教職員の資質向上とコンプライアンスの推進	11
③	学校における働き方改革の推進	12
④	子どもたちの安全・安心の確保	12
2	社会教育	
(5)	地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実	16
①	家庭の教育力の向上	16
②	地域における青少年活動の推進	16
③	現代社会を生き抜く青少年の健全育成	16
(6)	活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進	17
①	生涯学習推進体制の確立	17
②	公民館機能の充実	19
③	図書館サービスの充実	21
IV	評価者の意見	30

I 令和7年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、菰野町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」）を実施する。

2 点検及び評価の対象

令和7年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況のうち、令和7年4月1日から令和8年3月31日までに実施したものとする。

3 点検及び評価の方法

(1) 自己点検評価

菰野町総合計画を踏まえた菰野町教育大綱、菰野町教育振興基本計画及び令和7年度菰野町教育方針に基づき、令和7年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検及び評価を行う。

(2) 学識経験者等の知見の活用

菰野町の教育に関して知見を有する次に掲げる者から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

〈 知見者 〉

氏 名	職業（前職含む）
小林 浩司	建設会社社長
岡島 由香里	元教育委員

(3) 議会への報告

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに町ホームページへの掲載等により公表する。

Ⅱ 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、教育長と4名の教育委員により委員会を開催し、規則等の制定や生徒指導事案など重要な案件を審議した。また、研修会への参加や、視察研修を実施するなど、委員の資質向上に努めるとともに、学校訪問を実施し、学校運営の状況などについて現地で説明を受け、指導及び助言を行った。さらに総合教育会議において、教育を行うための諸条件の整備やその他地域の実情に応じた教育の振興を図るため、重点的に講ずべき施策についての協議を行った。

(1) 委員構成

役職名	氏 名	住 所	任期
教 育 長	北口 幸弘	菰 野	平成31年4月1日就任 令和7年9月30日まで
	内田 千香子	潤 田	令和7年10月1日就任 令和10年9月30日まで
教育長職務代理人	水谷 裕康	竹 成	令和2年10月1日就任 令和10年9月30日まで
委 員	岡島 由香里	田 光	平成21年10月1日就任 令和7年9月30日まで
委 員	石倉 雅孔	大羽根園	平成30年10月1日就任 令和8年9月30日まで
委 員	佐藤 久美	吉 澤	令和5年10月1日就任 令和9年9月30日まで
委 員	柴原 あすか	小 島	令和7年10月1日就任 令和11年9月30日まで

(2) 教育委員会の開催状況

開催数： 定例会 11回

(3) 委員研修状況

実施日	研修先	研修場所	研 修 内 容
8月4日	四日市市	四日市市総合会館	講演会 「大阪の教育行政に携わって私の思うこと」
11月7日	津市	三重県総合文化センター	三重の教育談義 「次期学習指導要領にそなえた三重の教育の展望」
12月22日	四日市市	四日市市幼児教育センター	幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

(4) 学校訪問

- ・(前期) 5月22日 千種小学校、鵜川原小学校、竹永小学校、八風中学校
- ・(後期) 11月21日 菰野小学校、朝上小学校、菰野中学校

(5) 総合教育会議

- ①第1回 6月30日
 - ・不登校対策及び支援について
 - ・自己肯定感について
- ②第2回 2月20日
 - ・教育活動における熱中症対策について
 - ・不登校対策及び支援について

(6) 委員会の主な審議内容

- ① 第4回教育委員会 (R 7. 4. 24)
 - ・令和7年度菰野町学校運営協議会委員の委嘱について
 - ・令和7年度菰野町奨学金貸付について
- ② 第5回教育委員会 (R 7. 5. 22)
 - ・菰野ふれあい教室への視察
- ③ 第6回教育委員会 (R 7. 6. 30)
 - ・令和7年菰野町議会第2回定例会の報告について
- ④ 第7回教育委員会 (R 7. 7. 28)
 - ・令和6年度菰野町教育委員会事務事業点検及び評価報告書について
- ⑤ 第8回教育委員会 (R 7. 8. 25)
 - ・令和6年度菰野町教育委員会事務事業点検及び評価報告書への意見について
- ⑥ 第9回教育委員会 (R 7. 10. 1)
 - ・仮議席の指定について
 - ・教育委員会教育長の職務を代理すべきものの指名について
 - ・菰野町教育委員会の議席の決定について
 - ・菰野町部活動地域移行推進協議会設置要綱の一部を改正する告示について
 - ・令和7年菰野町議会第3回定例会の報告について
- ⑦ 第10回教育委員会 (R 7. 11. 21)
 - ・視察研修について
 - ・菰野町立学校の管理に関する規則の一部を改正する規則について
- ⑧ 第11回教育委員会 (R 7. 12. 22)
 - ・令和7年菰野町議会第4回定例会の報告について
 - ・菰野町立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について
 - ・菰野町学校給食用食材納入業者の登録に関する要領について
 - ・菰野町立小中学校卒業式告辞について
- ⑨ 第1回教育委員会 (R 8. 1. 22)
 - ・菰野町立小中学校入学式祝辞について
 - ・小中学校の卒業式及び入学式の出席予定者について
 - ・菰野町各委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の改正について
 - ・第2回総合教育会議について
- ⑩ 第2回教育委員会 (R 8. 2. 20)
 - ・菰野町高等学校等入学準備資金補助金交付要綱の一部を改正する告示について
 - ・令和8年度菰野町学校教育指導方針について
 - ・校長及び教頭等異動内申について
 - ・教諭等異動内申について

- ・令和8年度「菰野ふれあい教室」運営要項について
 - ・令和8年度いじめ不登校対策事業について
 - ・菰野町特別支援教育巡回コーディネーター配置要項について
- ⑪ 第3回教育委員会（R 8. 3. 27）
- ・菰野町学校給食費に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
 - ・菰野町学校給食費に関する要綱の一部を改正する告示について
 - ・菰野町各種大会児童生徒派遣補助金交付要綱の一部を改正する告示について
 - ・管理職等面接について
 - ・令和8年菰野町議会第1回定例会の報告について
 - ・令和8年4月1日付け菰野町職員人事異動について

2 令和7年度菰野町教育方針

（1）学校教育

「新しい時代をたくましく生きる子どもの育成」

・小中学校【資料2】

教育課題を的確にとらえ、子どもを主体にした創意ある教育課程の編成に努め、家庭、地域社会との確かな連携のもと魅力ある教育活動の推進を図る。

・幼稚園

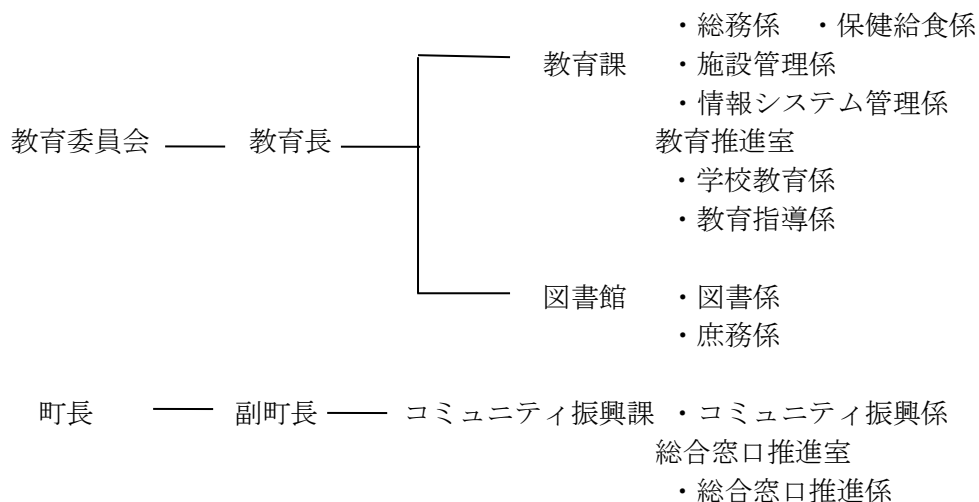
自発的な活動と遊びを通して、総合的な指導により人間形成の基礎を培う。遊びを中心とした生活を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度が身につくようにする。

（2）社会教育

「生涯学習の理念に基づいて幼児期から高齢者に至るすべての住民に少しでも多くの学習の場と機会を確保しながら健康で心豊かな人づくり、地域に根ざした町づくりの実現に努める。」

3 事務局体制

（1）事務局組織【資料1・9】



(2) 職員数の状況(常勤職員)

R 7. 4 現在(単位:名)

課 名	課長	室長 企画監	館長	課長補佐 主幹	係長 副主幹	係	会計年度 任用等	その他 (ALT)	合計
教育課	1	2		1	3	4	5	2	18
図書館			1			2	10		13
コミュニティ 振興課	1	1		1	2	2	2		9

(3) 外部職員数【資料4】

(4) 教育予算の推移(決算)

(単位:千円)

区 分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学校教育	1,188,980	1,111,173	1,129,526	1,430,261	1,376,308
社会教育	197,469	192,246	29,078	29,657	32,534
図書館	84,088	77,858	88,740	136,465	100,443
合 計	1,470,537	1,381,277	1,247,344	1,596,383	1,509,285
町一般会計	15,021,599	14,105,267	14,558,976	15,103,403	16,673,606
教育費割合%	9.8%	9.8%	8.6%	10.6%	9.1%

*学校教育には教育総務費、奨学金、幼稚園費を含む

Ⅲ 事務事業の執行状況

1 学校教育

(1) 確かな学力を育む教育の推進

① 主体的・対話的で深い学びの実現

きめ細かな個に応じた学習指導の充実を図るため、非常勤講師を小学校3年生から6年生の算数科と、中学校2年生と3年生の数学科及び英語科、その他学力向上のために必要と認められる教科について町単独で各学校に配置して少人数指導等を行った。

小学校6年生と中学校3年生を対象に「令和7年度全国学力・学習状況調査」が実施された。調査問題には、子どもたちに「どのような資質と能力を身に付けなければならないのか」、そのために「どのような授業を行えばよいのか」を示すメッセージとなる問題が出題されている。各校は、調査問題の分析、調査結果からみられた課題(子どもたちがどこでつまづいているのか)の分析を実施し、学習指導の改善及び充実の取組を推進した。

小学校4年生と5年生、中学校1年生と2年生を対象に行われた「みえスタディ・チェック」では、調査結果からみられた課題の分析を各校で行い、学習指導の改善と学習内容の確実な理解と定着を図る取組を進めた。

教職員の授業力向上については、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組が各校において推進されるよう、授業づくりのポイントをまとめたリーフレット「菰野町授業づくりマスター」を全教職員に対して配付し、浸透を図っている。令和7年度は「この1時間の授業の中で何ができるようになればよいのか」を「めあて」の形で示すことを徹底する指示を出し、児童生徒が「わかっ

た」「できた」という実感が持てる授業改善の取組のさらなる推進を図った。

さらに、朝上小学校と鶴川原小学校においては三重県教育委員会の「わかる授業推進事業」を受託し、担当課と連携しながら算数科、国語科における少人数指導を実施した。

② 特別支援教育の充実

特別な支援が必要な児童生徒について、各校で校内特別支援委員会を組織し、校内コーディネーターが中心となり、児童生徒への支援のあり方について組織的に検討した。令和6年度より、町内に2名配置している菰野町特別支援教育巡回コーディネーターを会計年度任用職員として任用（1名は事務局配置、1名は千種小配置）し、授業等に縛られない柔軟な運用のもと、各学校への助言を行った。対象児童生徒については、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成したうえで適切な指導及び支援を行った。また、特別支援教育支援員39名を各学校の状況に応じて配置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒への支援にあたってきた。さらに、子ども家庭課とも連携し、個別の指導や支援が必要と思われる児童生徒について、みえ発達障がい支援システムアドバイザー（支援センターあさけ）に助言を求めたり、アドバイザーが対象となる児童生徒へ直接対応したりすることで、学校での指導及び支援に活かしてきた。

菰野町立小学校に在籍する発達障害のある児童の学習上または生活上の困難を改善及び克服するために、令和2年度に竹永小学校に通級指導教室「ほっとルームたいよう」を開設し、令和6年度に千種小学校に通級指導教室「ほっとルームひまわり」を開設した。令和7年度は「ほっとルームたいよう」及び「ほっとルームひまわり」ともに、のべ13名の児童が通級指導を受けた。

特別支援学級在籍児童生徒への指導及び支援については、校内研修会等で全教職員が授業を参観し情報を共有したり、菰野町巡回コーディネーターが訪問し、指導及び支援のあり方について助言したりしてきた。また、31名の介助員を学校の状況に応じて配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒への支援にあたってきた。

菰野町就学支援委員会では、対象となる園児、児童及び生徒の観察や聞き取りを行い、あわせて保護者の就学相談も行うことで、子どもや保護者のニーズに合ったよりよい就学支援を目指している。

③ グローバル教育の推進

小中学校の外国語教育の充実を図るために、ALT（外国語指導助手）2名を小中学校に派遣し、子どもたちがネイティブの英語音声に親しみ、発音を習得する機会の確保に努めた。

小学校5年生と6年生の外国語科の授業において、学習指導要領に示された外国語科の目標及び英語学習の特質を踏まえ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域別に設定された目標の実現を目指した指導が小学校において行われるために、三重県教育委員会の支援を受けて、CAN-DO リスト（学習到達目標）に基づいた言語活動を重視した英語授業の研修を実施した。

また、小中連携にも力を入れ、小中学校の英語担当教員が授業参観をふまえて交流、協議する機会を設定し、学習指導要領に示された英語の目標や指導内容の共通点と相違点について理解を深めて指導に活かす取組を推進した。

④ ICT を活用した授業の充実

各学校が ICT を活用した教育の考え方と進むべき方向性について共通のビジョンを

持ち、効果的な活用方法を模索しながら教育の質の向上を図っていくために、国の GIGA スクール構想の方針を踏まえた「菰野町学校 ICT 教育推進計画」を策定し、各校に示している。

また、義務教育 9 年間に獲得すべき情報活用能力をまとめた「学年別情報活用能力段階表」や必修化されたプログラミング教育が小学校において確実に実施されるために、発達段階に応じた「プログラミング学習教材系統表」を各学校に示している。各校はそれらに基づき、情報活用能力育成のための年間指導計画を作成し、見直しをもちながら情報教育を推進している。

各校が ICT 環境を安定的に維持することができるよう「学年別情報活用能力段階表」や「1 人 1 台端末使用上の約束」、「健康に関する指導」、「紛失・故障・破損等の対応」等を取りまとめたガイドブックを作成し、各学校に配付・周知を行った。また、年間 5 回の情報担当者会議を開催し、ICT の環境整備や活用方法について協議を重ねた。

菰野町では、児童生徒 1 人 1 台端末に学習者用デジタル教科書を導入している。ICT 支援員を各学校へ派遣し、教職員と児童生徒への ICT 機器等に関する技術面等のサポートを行った。

また、情報発信による他者や社会への影響、インターネット上のルール等を守ることの意味、情報には自他の権利があること、情報には誤ったものや危険なものがあることについて考え、適切に情報を活用することについて学ぶ情報モラル教育を推進した。

⑤ キャリア教育の推進

各教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して、かつ他の教育活動とのバランスに配慮しながら、汎用性のある学力、コミュニケーション能力、忍耐力、規範意識、マナー、働く者の権利や義務についての理解、男女共同参画を重んずる態度等、社会的、職業的自立に必要な能力の育成を図った。特に中学校においては、子どもたちが望ましい勤労観や職業観を持ち、主体的に進路を選択する能力を身につけていくことをめざし、外部講師を招いてのマナー講座や職場体験学習を実施した。

⑥ 幼児教育の充実

就学前教育と保育の両方を提供する幼保一体施設の運営を継続して行い、町内すべての小学校区で保護者のニーズに寄り添った就学前教育及び保育、幼児教育の充実に努めた。幼保一体化幼稚園を含めたすべての幼稚園において 3 歳児保育を実施している。

各中学校区の校園長会議や、子ども支援ネットワーク会議の中で、幼稚園、認定こども園、保育所及び小中学校の連携を目的とした研修会をもち、学校や園の状況、教育課題等についての共通理解を深めることができた。また、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、保幼小の相互の活動を園児と児童が体験したり、職員が参観したりすることで交流を行ってきた。

子ども家庭課と連携をしながら、今後も園と小学校の子どもたちの具体的な姿をもとに教育方法や指導計画について意見交換をする機会等を設け、園と小学校との円滑な接続を一層図るよう努めていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

① 人権教育・道徳教育の充実

人権教育では、各学校が策定した「人権教育推進計画」に基づき、子どもたちの人権尊重の意識と実践力を養うため、教科等指導や生徒指導、学校経営などの教育活動全体を通して、一人ひとりの存在や思いが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」をめざし、町内すべての小中学校で、子どもたちの発達段階に応じた「人権教育カリキュラム」を作成し取組を進めた。

道徳教育では、各校において学校や子どもたちの実態に基づき、道徳教育の全体計画等を作成し、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を実施した。各教科や総合的な学習の時間及び特別活動等においては、それぞれの特質を生かしながら、生命を尊重する態度、我が国の伝統や文化、郷土を愛する心等、子どもたちの道徳性が養われる教育活動を推進した。

道徳科においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を子どもたちに育成するために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的及び多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりする学習場面を重視した授業を推進した。

また、子どもたちの日常的に情報機器を用いる環境に対応するため、道徳科の授業において、情報機器等は便利である一方、使い方によっては違法行為や他者を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすことについて子どもたちが考えを深めることができる情報モラル教育の充実に努めた。

② 安心して学べる学校づくり

学校においてはすべての子どもたちにとって居心地の良い学校となるように、子どもたちに対する観察と教育相談に加えて、「hyper-QU」（子どもたちの内面を知ることのできる「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査」）を実施するなど、さまざまな観点から子どもたちの実態を把握し、日常の学級指導や特別活動などにおいても集団づくりの取組を進めた。

児童生徒の悩みを積極的に受け止めることができるようにするため、令和7年度もスクールカウンセラーや生徒指導推進協力員、スクール相談ネットワークを町単独で配置し、生徒指導体制の確立に努めた。学校内の巡回や問題行動等の予兆の早期発見、未然防止、保護者への支援等の取組を進めてきた。各校の状況をスクール相談ネットワークと情報共有し、子ども家庭課や北勢児童相談所、四日市西警察署、三重県教育委員会のスクールソーシャルワーカーや生徒指導特別指導員等の関係機関と連携して、適切な指導に努めた。

また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校教育に携わるすべての関係者がいじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応するよう、学期に1回以上のアンケート調査や個別面談等により、いじめの早期発見、早期対応に努めた。いじめ問題の根本的な解消に向けて子どもたちの人権感覚を高め、思いやりの心や個性を認め合う力を育成し、さらには違いを多様性として理解する力を培い、「いじめを許さない心」を育むとともに「いじめを許さない」「見て見ぬふりをしない」ことが自然で当然な価値観とされるよう取組を進めた。また、情報モラル教育やリスク管理を推進するとともに、教職員や保護者等の情報技術に対する対応力の向上を図り、いじめを含むネットトラブルの未然防止や早期発見、早期対応にも努めた。

さらに、令和6年度まで行っていた町単独事業を拡充し、「保健福祉センターけやき」に菰野ふれあい教室を、「三重県民の森 ふれあいの館」に八風ふれあい教室を設置した。不登校児童生徒の居場所として、個別指導を中心に基礎学力定着のための学習支

援に努めるとともに、教育相談セラピストも年間 30 回派遣し、不登校児童生徒（保護者を含む）の相談に応えてきた。菰野ふれあい教室は週 5 回、指導員 2 名体制で運営しており、令和 7 年度は小学生 14 名と中学生 7 名が入級した。八風ふれあい教室は週 3 回、指導員 2 名体制で運営しており、令和 7 年度は小学生 5 名が新たに入級した。

教育委員会事務局に非常勤の教育相談員を配置し、教育相談にあたってきた。令和 7 年度は、面談 22 件（来所 22 件・巡回 0 件・訪問 0 件/昨年度計 55 件）、電話による相談 0 件（昨年度 6 件）となっている。主な相談内容は、不登校の問題や学校生活への適応を含めた学業や進路に関するもの、家庭に関するものであった。なかでも相談内容として多かったのは、不登校に関する相談と家庭に関する相談で、カウンセラーや子ども家庭課と連携し、発達検査も実施しながら支援の方向性を検討した事例は 63 件であった。

不登校児童生徒数は、小学校で 68 名（前年度 75 名）、中学校で 61 名（前年度 76 名）と、小学校で 7 名の減少、中学校で 15 名の減少となった。近年、小学校の不登校児童数に増加傾向が続いていたが、令和 7 年度は減少に転じた。令和 7 年度は、小学校の低学年の増加と中学校の 1 年生の減少が目立った。小学校で減少に転じた原因の一つとしては、令和 7 年度から小学校でも取り組み始めたレジリエンス教育（県教委・生徒指導課）が考えられる。不登校の原因は種々様々であるが、聞き取りによる主たる要因は小中学校ともに「学校生活に対してやる気がでない」であった。コロナ禍が長期化したことで、人と人とが関わり合う機会が減少し、友だちと人間関係を築くことに難しさや不安を感じる児童生徒が増えたことも原因ではないかと考えられる。スクール相談ネットワークや菰野ふれあい教室指導員が学校の不登校対策委員会に出席するなど学校と連携し、また各学校においては関係機関等と情報の共有を図りながら指導及び支援にあたってきた。

(町不登校児童生徒数)				人、() 内は%、R 7 は暫定値		
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小学校	16(0.67)	18(0.74)	41 (1.69)	43(1.85)	75(3.23)	68(3.11)
(全国平均)	(1.0)	(1.3)	(1.7)	(2.1)	(2.3)	
中学校	40(3.56)	34(3.0)	62 (5.46)	88(7.32)	76(6.32)	61(5.28)
(全国平均)	(4.09)	(5.3)	(6.0)	(6.7)	(6.8)	

③ 読書活動の充実

読書活動を通して、子どもたちの感性を磨き、表現力や想像力を育み、人生をより深く生きる力を身に付けさせるなど、豊かな心の育成に取り組んできた。また、読書活動は主体的に学ぶ力や読解力、言語能力、創造力を育む重要な学習活動である。学校においては、一斉読書や読み聞かせ、家庭における読書活動の啓発に努めた。

平成 28 年度より町内すべての小中学校へ菰野町図書館の司書が月 2 回の巡回訪問を行い、菰野町図書館と学校が連携し、学校図書館の環境整備に努めている。子どもたちが新しい情報に触れることができるよう、刊行後の時間の経過により内容が古くなった図書等については、環境、キャリア教育、情報化社会等に関する図書を中心に、計画的に更新を行っている。また、文学や読み物漫画に偏ることなく、自然科学や社会科学等の分野の図書資料の割合を高める等、子どもたちや教職員のニーズを把握しながら、バランスの取れた蔵書構成となるよう選定に努めている。

(学校図書館の整備状況)

R 8. 3

	実学級数	図書標準数	R 7 年度末蔵書数	達成率
菰野小学校	39 学級	11,680 冊	19,933 冊	1.706
千種小学校	15 学級	9,160 冊	10,539 冊	1.150
朝上小学校	16 学級	9,560 冊	13,991 冊	1.463
鵜川原小学校	9 学級	6,520 冊	10,949 冊	1.679
竹永小学校	15 学級	9,160 冊	12,036 冊	1.313
菰野中学校	27 学級	16,480 冊	18,381 冊	1.115
八風中学校	14 学級	11,680 冊	15,474 冊	1.324

④ 郷土教育の推進

自分たちが育ってきた地域を大切に守っていこうとする心や地域に貢献しようとする態度を養う等、郷土について考える機会の充実を図るため、地域の教育資源や、「わたしたちのまち菰野町」（小学校社会科副読本）を活用するほか、町で保管している郷土資料を小学校へ持ち出し、実際に資料に触れながら学芸員から授業を受けるなど、「郷土を知り、郷土から学ぶ」学習活動を推進した。これらの学習活動においては、各校の学校運営協議会（菰野町コミュニティ・スクール）の取組と関連付けながら、郷土教育を実施することができた。

(3) 健やかな体を育む教育の推進

① 健康教育の充実

子どもたちが自分自身を価値ある存在として認め、自分を大切に思う自尊感情を育むなど、教育活動全体を通して「いのちの教育」に取り組んだ。また、性に関する教育やがん教育、喫煙・飲酒の防止、薬物乱用防止教室等、子どもたちの健康課題については、子どもたちの発達段階に応じて、小学校の体育科や中学校の保健体育科の授業を中心に養護教諭や栄養教諭等と連携し、学校の教育活動全体を通じた健康教育を実施した。養護教諭等により保健だより等を発行し、児童生徒だけでなく、保護者に対しても健康に関する啓発を行った。

② 体力の向上

学校体育では、体育や保健体育の授業及び運動部活動、スポーツ行事など、学校教育活動全体を通して、子どもたちが運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフの基礎を培うものとして充実を図ってきた。

また、児童生徒一人ひとりがそれぞれの能力と適性に応じて、運動の課題を自ら解決することによって運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動の技能を高めることができるように授業づくりを進めた。

「三重県児童生徒の体力・運動能力調査」については、調査対象の児童生徒だけでなく、全学年の児童生徒に対し体力測定を実施して、早期からの子どもたちの体力向上に向けた取組を行っている。

さらに、運動部活動においては、菰野町部活動ガイドラインに基づいた適切な運営と効果的な指導のもと、学校生活に豊かさをもたらすことができるよう進めてきた。令和7年度は、両中学校に4名の部活動指導員を配置し、子どもたちに対して専門的な指導を充実させることができた。また、国の委託事業である地域スポーツクラブ活動体制整備事業の実施により、NPO 法人元気アップこものスポーツクラブの地域指導者を両中学校の運動部に配置し、休日に地域クラブ活動を実施することで、地域と連

携した持続的な運動機会の確保・充実に取り組むことができた。

③ 食育の推進

望ましい食習慣の形成、食に関する正しい知識の習得、さらにはその知識に基づいて食品の品質および安全性について自ら判断できる能力の育成を図った。また、栄養教諭などを中心に、校内で「食に関する指導」の計画を立て、学校教育全体を通して望ましい栄養や食事の摂り方、食に関する正しい知識等、指導内容の充実を図った。

令和7年度も菰野小学校、朝上小学校に栄養教諭を配置し、所属校が属する中学校区のすべての小中学校も担当し、小学校1年生から中学校3年生までのそれぞれの発達段階に応じた食育指導を担当や養護教諭等と連携して実施した。

また、小学校では給食だよりを定期的に発行し、児童だけでなく保護者に対しても食育の啓発等に取り組んだ。

その他には、令和3年度に菰野町学校給食検討会より提出された小中学校給食の在り方検討結果報告書の内容を踏まえ、今後の小中学校給食事業の方向性や行程等を示した。適切な事業実施につなげていくことを目的として、令和5年度に菰野町学校給食基本構想を策定しており、この基本構想で示した食育の推進につながる小中学校合同の学校給食センターの整備に向け、用地の選定及び契約を行った。現在は、学校給食センターの設計中である。

(4) 信頼される学校づくり

① 地域とともにある学校づくりの推進

菰野町においては、平成29年度より町内すべての小中学校でコミュニティ・スクールをスタートさせた。

菰野町学校教育指導方針の一つである「地域とともにある学校づくり」を基本として、各学校の地域の実情や子どもたちの状況に応じた特色ある学校経営がなされるよう、各校の学校経営方針を学校づくりビジョンとして位置付けている。学校づくりビジョンは、学校だよりや各校のホームページ等を活用して公開している。また、児童生徒や保護者、教職員を対象とした学校評価についても同様に情報公開を行っている。

学校マネジメントシステム（学校自己評価と学校関係者評価）やコミュニティ・スクール等を活用することで、保護者や地域住民が学校運営に参画する機会を増やしている。さらに学校公開日（週間）を通して日頃の教育活動を広く公開するとともに、地域の人材を活用した外部講師（ゲストティーチャー）を教育活動の中に取り入れたりと、中学生が地域のふれあいまつり等にボランティアとして参加したりするなど、地域と学校の双方向の連携を図り、地域に信頼される「地域とともにある学校づくり」に努めた。各学校においては、これまでの地域と連携した取組が組織的に活動できるようになり、これらの取組を通して地域の方々や児童生徒にとってよい刺激となるなど、学校教育の質の向上につなげることができた。

② 教職員の資質向上とコンプライアンスの推進

日常的にOJTによる人材育成を行い、授業の進め方や生徒指導のあり方等の具体的な課題について同僚との議論を通して互いの力を磨こうとする「育てる文化」をつくりながら教職員としての資質の向上を図った。また、教職員同士の対話を重視し、互いに認め合える職場づくりをめざすとともに、学校の課題を共有し解決していくために、組織として対応する教職員集団を育成し、学校組織の活性化及び同僚性の構築を図った。

教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保に関して、「教職員向けコンプライアンス・ハ

ンドブック」や「コンプライアンス・ミーティング研修資料について」（ともに県教委資料）を活用した校内研修等による教職員の意識改革を促している。

教職員の授業力の向上については、学力向上アドバイザーを町単独で2名配置し、各校の要請に応じて派遣を行っている。学習者主体の考え方に立ち、児童生徒の基礎的かつ基本的な知識の習得の徹底と、児童生徒が「できた」という実感を持てる授業づくりのための支援を進めている。

③ 学校における働き方改革の推進

総括安全委員会において、前年度の時間外在校等時間などの分析結果をもとに、全校での総勤務時間の縮減に向けた取組を行っている。「定時退校日の設定」「(菰野町部活動ガイドラインに則った)部活動休養日の設定」「会議時間の短縮」のような取組目標であったり、「年に1日分の休暇の取得日数の増加」や「時間外労働者数0人」などの具体的な数値目標を掲げたりしている。また、全校に、学校電話の「休日・夜間モード設定」を導入し、勤務時間外の教職員の負担軽減を進めている。これらの取組は、学校を通じて各家庭にプリントを配付することで、保護者の理解を得ることに努めている。

業務内容の改善取組としては、「校務支援システム(C4th(シーフォース))」を活用することにより、校務で取り扱うさまざまなデータを電子化し、校務の情報化を図ることで、名簿や成績表及び保健管理等を取り扱う時間の削減など、一定の定量的効果を上げることができている。

教員の指導のための時間の確保として、各学校の職務内容や職場環境を把握し、教員による日常的な児童生徒との関わりや、教育相談等を定期的に実施できる職場づくりに努めた。業務負担の軽減策としては、令和6年度の時間外等在校時間に応じたスクール・サポート・スタッフの全校配置、生徒指導及び不登校支援の対応として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの各校への配置や、不登校対策・学校業務支援員の活用を促した。令和7年度は不登校対策・学校業務支援員を1名増員し2名体制で支援の拡充を図った。また、図書館司書の全校への訪問時間や回数を増やすなど、専門職種の学校への導入を積極的に推進し、児童生徒と向き合う時間が生み出せるようにサポートしている。

また、学校の働き方改革を推進するため、令和7年6月に「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」が改正され、令和8年4月1日から施行されることとなった。これを受けて、文部科学省の指針に基づき、「菰野町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定した。

④ 子どもたちの安全・安心の確保

子どもたちを取り巻くあらゆるリスクを想定し、家庭や地域とも連携した安全対策の確立と、教職員の危機管理意識や危機管理能力の向上を図り、あらゆる教育活動の中に安全教育(生活安全〈防犯を含む〉教育、交通安全教育、防災教育)を位置づけることで、子どもたち自らが危険を予測したり回避したりする力を身に付けられるよう努めた。

学校施設は児童生徒等の学習や生活の場であることから、学校施設の耐震化の推進、安全点検の徹底、教職員の危機管理意識を高める取組等を通して、事故が起こらない環境づくりを進めた。

また、夏場の熱中症への対応として、新型コロナウイルス感染症対策の経験を活かし、非常時においても子どもたちが安全・安心に学びを継続していくことができるよう、学校運営を持続していくよう努めた。

(施設整備事業の主な内容)

工事名	請負業者	請負金額	工期	工事概要
菰野小学校駐車場 舗装整備工事	株式会社 内田工業所	12,190,200 円	自 R 7. 6. 6 至 R 7. 10. 5	舗装整備
千種小学校 敷地整備工事	株式会社 マスダ重工	23,530,100 円	自 R 7. 6. 6 至 R 7. 11. 20	法面人工芝 舗装整備
千種小学校体育館 建具改修工事	株式会社 佐野テック	3,872,000 円	自 R 7. 6. 16 至 R 7. 9. 13	建具改修
千種小学校東校舎 内装改修工事	辻木材 株式会社	1,065,900 円	自 R 7. 5. 30 至 R 7. 8. 31	床改修他
千種小学校プール 漏水補修工事	有限会社 内田設備	1,980,000 円	自 R 7. 12. 3 至 R 8. 3. 31	漏水補修
朝上小学校 シャワー室増設工事 (建築工事)	辻木材 株式会社	1,090,100 円	自 R 7. 6. 6 至 R 7. 8. 31	造作工事
朝上小学校 シャワー室増設工事 (機械設備工事)	有限会社 山下設備工業	1,012,000 円	自 R 7. 6. 6 至 R 7. 8. 31	給排水 設備工事
朝上小学校 外構補修工事	辻木材 株式会社	1,050,500 円	自 R 8. 1. 30 至 R 8. 3. 31	土間他補修
竹永小学校 校舎他改修工事 (長寿命化事業)	株式会社 舘建築	26,063,400 円	自 R 7. 6. 20 至 R 7. 10. 17	床材貼替他 各所改修
菰野中学校 付帯設備改修工事	株式会社 八幡建設	5,287,700 円	自 R 7. 6. 20 至 R 7. 9. 17	駐輪場 スロープ改修他
菰野中学校トイレ 間仕切改修工事	株式会社 八幡建設	1,234,200 円	自 R 7. 7. 30 至 R 7. 8. 31	間仕切改修

工事名	請負業者	請負金額	工期	工事概要
八風中学校 校舎他改修工事 (長寿命化事業)	辻木材 株式会社	32,348,800 円	自 R 7. 6. 20 至 R 7. 10. 17	床材貼替他 各所改修
旧教職員住宅 解体工事	諸岡建設 株式会社	2,992,000 円	自 R 7. 6. 9 至 R 7. 8. 7	解体工事

[主な修繕内容]

- 菰野小学校 : 配管修繕、漏水修繕等
- 千種小学校 : 消防設備修繕、配線用遮断器修繕等
- 朝上小学校 : 雨漏り修繕、配線用遮断器修繕等
- 鶴川原小学校 : 漏水修繕、遊具修繕、内壁修繕等
- 竹永小学校 : 建具修繕、プールサイド修繕、床修繕等
- 菰野中学校 : 消防設備修繕、ガス管修繕、ポンプ部品修繕等
- 八風中学校 : 消防設備修繕、配管修繕、漏水修繕等

【評価と今後の方向】

菰野町教育大綱及び菰野町教育振興基本計画の方針では、「新しい時代をたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標として掲げ、「自立と共生」と「信頼」をキーワードに、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の4つを柱にして、菰野町が目指す学校教育の方向性を示している。この方針に基づき本年度の教育活動を推進した。個別の主な事業についての評価と今後の方向については、以下のとおりである。

学力の定着に向けて、町単独で各学校に非常勤講師を配置し、少人数授業を小学校3年生から6年生の算数科で、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で実施し、また、その他学力のために必要と認められる教科について、児童生徒一人ひとりにきめ細かな個に応じた指導をしてきている。しかし、講師不足が深刻な状況であり、産育休や病休補充の常勤講師が十分に配置できずに、少人数授業の実施に影響が出る場合があるのが課題である。今後も引き続き小学校の算数科と中学校の数学科及び英語科に重点を置いた少人数授業の推進を図り、その他学力向上のために必要と認められる教科において、基礎学力の定着ときめ細かな指導を目指していく。

これまで「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」を通して、各学校

で学力調査の結果を分析し、課題を明らかにして、授業改善に取り組んできた。また、学年末には取組の検証も行った。今後も調査結果の分析を実施し、授業改善につなげられるようにしたい。また、調査結果については経年推移からも分析し、有効に活用していく。

ICTを活用した授業づくりについては、各校に示している「菰野町学校 ICT 教育推進計画」に基づき、導入した学習者用デジタル教科書等の効果的な活用や、情報モラル教育の充実を図ることで、ICT 環境を安定的に維持することができるよう取組を推進していく。

特別支援教育については、校内特別支援委員会の中で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を推進するために、個別の教育支援計画や指導計画を作成して、保護者や関係機関との連携を図り、児童生徒の指導及び支援にあたってきた。就学前、小学校、中学校と途切れのない支援体制を整えるため、子ども家庭課との連携を強めるとともに、町内 2 名の特別支援教育巡回コーディネーターを各学校からの要請に応じて派遣し、就学相談等の充実を図ってきた。今後も、途切れのない支援体制の整備、関係機関との連携を充実させる。また、障害者差別解消法を受け、今後も学校現場における合理的配慮の提供についても各校と協議しながら取組を進めていく。

通級指導については、令和 6 年度に千種小学校に開設し、2 年目となった通級指導教室「ほっとルームひまわり」において、菰野中学校区の児童を対象として指導を行った。竹永小学校に開設し、6 年目となった通級指導教室「ほっとルームたいよう」とともに、通級指導担当教員の発達障害のある児童への指導や支援に係る専門性の向上を図りながら指導や相談体制を維持している。

外国語教育については、ALT（外国語指導助手）を活用するとともに、小中学校の英語担当教員の交流や協議の場を設け、小学校における外国語や外国語活動の授業力向上や小中連携の取組を推進する。

幼児教育については、これまで進めてきた CLM（チェック・リスト・イン三重）や個別の指導計画、パーソナルカルテ（菰野町版）等の取組も活用し、保育園、幼稚園、こども園、小中学校の連携をさらに深める。また、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、子ども家庭課と連携しながら、園と小学校の子どもたちの具体的な姿をもとに教育方法や指導計画について意見交換をする機会等を設け、園と小学校との円滑な接続を一層図ってきた。

人権教育・道徳教育については、全教育活動を通じて、一人ひとりの存在や思いが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を進めるとともに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深める学習活動を重視した授業づくりを推進した。

町内の不登校児童生徒数については、令和 7 年度は昨年度と比べ小学校で 7 名の減少、中学校で 15 名の減少となった。不登校の要因は様々であるが、特に小学校で依然として不登校率が高い状況が続いていることは菰野町にとって大きな課題であると言える。学校の支援室や菰野ふれあい教室、八風ふれあい教室等での学習を通して、自己肯定感や自尊心の育成を図り、徐々に自己実現に向けての成果を上げている子どももいるが、不登校及び不登校傾向が長期化してしまっている児童生徒もいる。不登校児童生徒の増加を受け、令和 6 年度は両中学校で不登校の入り口の段階での未然防止の取組（レジリエンス教育）に視点を当てた実践を行った。令和 7 年度は新たに策定した「菰野町レジリエンス教育実施計画」に基づき、すべての小中学校でレジリエンス教育に取り組んだ。児童生徒の状況に応じた多様な学びの場の提供が求められるなか、不安や悩みを受け止められる体制づくり（校内外の居場所の確保、教育相談の充実、「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（hyper-QU 調査）」等の取組、カ

ウンセラー等の配置、教職員のカウンセリングマインド研修等)の充実を進める。

読書活動の推進については、一斉読書の取組、図書標準数達成に向けての書架整備、家庭での読書の啓発など読書活動の充実に取り組んできている。また、菰野町図書館職員によるブックトーク、こもの電子図書館の電子書籍の利用など、菰野町図書館と連携した取組も進めた。今後も、家庭や図書館司書と積極的に連携し、学校図書館の環境整備や家庭読書を推進していきたい。

体力向上については、町内すべての小中学校において体力テストを実施し、その傾向と課題を分析しながら、基礎体力の向上に向けて取組を進めていく。また、中学校部活動については、引き続き菰野町部活動ガイドラインに基づいた適切な運営を行うとともに、部活動の地域移行（展開）については、国の委託事業である地域スポーツクラブ活動体制整備事業を受け、NPO 法人元気アップこものスポーツクラブ指導者による地域クラブ活動を休日に実施し、令和8年度中の休日の学校部活動完全移行へ向け、地域と連携した持続的な運動機会と文化活動の確保・充実に取り組むことができた。

地域とともにある学校づくり推進事業（コミュニティ・スクール）については、年間4回程度の学校運営協議会での意見交換や授業参観等を行っている。郷土の自然や、地域資源を生かした学習など各校での取組が充実してきている。今後も情報を積極的に発信し、地域や家庭と情報を共有しながら事業を進めていく。

学校施設、設備の充実については、児童生徒の利便性、快適性の向上に向けた対策を継続して進めていく。また、学校電話の「休日・夜間モードの設定」、「校務支援システム」の活用を定着させ、草刈りなどの校内環境整備や、プール清掃を外部委託することで、学校における働き方改革を推進した。教職員の長時間労働を軽減し、教育の質の向上をめざす取組を実施している。

2 社会教育

(5) 地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実

①家庭の教育力の向上

家庭教育講座として、防災ラジオなどを通じて啓発活動を行った。

②地域における青少年活動の推進

青少年健全育成を推進するため、地域における非行防止の環境づくりや補導活動等を支援した。

③現代社会を生き抜く青少年の健全育成

青少年育成町民会議を中心とした非行防止パトロール、あいさつ運動等を支援し、補助金を活用することで活動の場を広げ、町ぐるみでの青少年育成活動を行った。

○青少年活動支援推進事業

事業名	期 日	対 象	場 所	人 数
コボンタフェスティバル	7月6日	18歳以下	町民センター ホール	450名
KOMONOプロギング	9月28日	一般	菰野町庁舎 町民センター周辺 (町民会議事業)	39名

書初め大会	1月10日	幼保園児 小中学生 一般	体育センター	75名
新春たこあげ大会	1月10日	親子	朝上小学校 (町民会議事業)	72名
育成者指導者研修会 家庭教育研修会	2月7日	一般	町民センター ホール	60名

(6) 活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進

①生涯学習推進体制の確立

よもやま歴史教室や人権コンサート、かもしかライフカレッジ等、生涯学習の振興を図るための講座や講演会などを行った。また、外国語指導助手により、隔月で国際交流会を開催し、町内における国際交流活動を推進した。

○生涯学習推進事業

よもやま歴史教室 2025

[主催]菰野町/よもやま歴史サークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	5月17日 14:00～	土方雄久公一代記	歴史研究家 平尾 栄滋 先生	75名
2	6月21日 14:00～	織田水軍の将 九鬼嘉隆と九鬼水軍	鳥羽市教育委員会 文化財専門員 豊田 祥三 先生	79名
3	7月19日 14:00～	高須藩と高須四兄弟	郷土史家・海津市歴史 民俗資料館運営委員 大野 正茂 先生	83名
4	8月15日 10:00～	津空襲を顧みる	津市教育委員会 生涯学習課文化財担当 熊崎 司氏 体験者 齊藤 正和 氏 廣田 碩 氏	50名
5	9月27日 14:00～	幕末に城になった菰野陣屋	広島大学名誉教授 三浦 正幸 先生	173名
6	10月18日 14:00～	台湾の中の日本語	関西学院大学教授 大東 和重 先生	81名

7	11月15日 14:00～	中国の現代史について	静岡大学人文学部教授 大野 旭 先生	59 名
8	1月17日 14:00～	『冠嶽（鎌ヶ岳）乃記』を読む	元高等学校国語科教諭 麦島 英男 先生	66 名
9	2月14日 14:00～	名城を訪ねて	よもやま歴史サークル 会員 小倉 清 氏	92 名
10	3月14日 14:00～	今こそ学ぼう拙堂に	拙堂研究家 齋藤 正和 先生	52 名

かもしかライフカレッジ 2025 [主催]菰野町/かもしかライフサークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	8月1日 19:00～20:30	夏のほしぞら観望会	星空案内人 星のソムリエグループ	100 名
2	12月14日 13:00～15:30 午前、午後の部	Gardening Open Lecture ワークショップ	MAY GARDENS ガーデンデザイナー 柵山 直之 先生 他	30 名
3	12月21日 14:00～16:00	ウィンターコンサート	三重ユナイテッド ウィンドオーケストラ	480 名

○教育委員会主催 人権教育事業

事業名	期 日	場 所	人数
各地区公民館 ・人権コンサート ・人権講演会	7月～1月	各地区公民館 各地区コミュニティセンター	636 名
人権コンサート	2月21日	町民センターホール	270 名

○教育委員会主催 文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
町民盆踊り講習会	6月28日	菰野地区 コミュニティセンターホール	100 名
二十歳のつどい	1月11日	菰野町町民センターホール 菰野町体育センター	335 名

プロの音楽家による 課外授業アウトリーチ	12月8日	鶴川原小学校	小学校 4年生
	1月15日	千種小学校	
	1月16日	菰野小学校	
	2月12日	朝上小学校	

○教育委員会支援文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
第29回菰野町俳句大会	7月12日	菰野町町民センターホール (他、小中高校生345句事前応募)	57名 516句
第15回三滝川燈火祭り & 第37回町民盆踊り大会	8月23日	三滝川河川敷周辺	15,000 名

○国際交流事業（異国文化とふれあう）

事業名	期 日	場 所	人 数
Sports around the world	5月7日	菰野町庁舎4階会議室	22名
Summer Festivals	7月23日	菰野町庁舎4階会議室	20名
Let's Meet Jaime	9月10日	菰野町庁舎4階会議室	13名
Ghost Towns	11月5日	菰野町庁舎4階会議室	10名
Dance Around the World	1月7日	菰野町庁舎4階会議室	11名
Outer Space	3月11日	菰野町庁舎4階会議室	10名

②公民館機能の充実

生涯学習の推進を図るため、町公民館や地区公民館において各種学級、講座を開催するとともに、公民館を趣味のサークルの場として、町民センターや南部公民館、地区公民館等の施設を町民に開放した。

○公民館教室及び講座

	教室、講座名	期間	日時	学習内容	講師名	会場	人数
1	文学講座	6月 ～ 11月	第4金曜日 13:30～ 15:00	「大鏡」を読む ～藤原道長の 栄華を讃える 歴史物語～	三重県生涯 学習センタ ー講師 河原徳子	町民センター 会議室	61名
2	親子モノづく り講座、 ロボット講座	6月 ～ 1月	月1回 土曜日 9:30～ 11:00 11:00～ 12:30	ロボット製作 を通して、もの づくりに必要 な知識、技術を 身につける	株式会社 ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	親子 21組

3	ガーデニング講座	5月 ～ 12月	第3木曜日 9:30～ 11:00	お庭づくりの 基本をプロが 分かりやすく 伝える	メイガーデ ンズ ガーデン デザイナー 柵山 直之	町民センター 会議室	20名
4	ソーシャル メディア 講座	6月 ～ 11月	第1月曜日 18:30～ 20:00	SNSの安全で効 果的な使い方 を学ぶ	有限会社 ザワン ノブ横地	菰野町庁舎 4階 会議室等	8名
5	ワクワク 古文書講座	5月 ～ 3月	第4水曜日 13:30～ 15:00	古文書の読み 方を学ぶ	中京大学文 学部名誉教 授 播磨 良紀	町民センター 会議室	45名
6	びっくり 理科実験教室	8月16日	14:00～ 16:30	おもしろ理科 実験から科学 の不思議を学 ぶ	ロボネット 堀田 武志	南部公民館 育成センター	15組
7	親子DIY 教室	7月26日 8月2日	13:30～ 15:30	作りたいもの を自分で設計 して親子で一 緒に組み立て る。	株式会社 館建築 館 巧	南部公民館 育成センター	12組

③図書館サービスの充実

当館は平成20年4月11日に開館し、令和7年度で18年目を迎えた。町民をはじめ近隣市町の利用者に生涯学習の場として広く活用されており、中学生・高校生から高齢者まで幅広い年代に利用されている。

児童書架には、児童書・絵本・紙芝居に加え、育児関連資料を配置している。また、絵本の読み聞かせ、英語による読み聞かせ、菰野町の民話語り、パネルシアター、朗読劇など、多様な読書関連イベントを実施し、子どもたちが読書に親しむ機会を提供している。

令和7年度の実績として、図書開架室の年間入館者数は26万9千人、提供した図書資料は39万7千冊となった。

学校図書館に対しては、図書館司書による巡回支援を継続し、児童生徒の読書意欲向上に取り組んでいる。また、小学生向け事業「子ども司書」の修了生が、中学生以降も図書館活動に関わることができる組織「リトルライブラリアン」の活動の場を確保している。

施設管理面では、経年劣化設備の長寿命化事業の一環として防犯カメラの更新工事を実施し、安全性の向上と良好な読書環境の維持に努めた。

ア) 図書館事業

事業名	開催日	時間	場所	備考	参加数
リトルライブラリアン	4月～3月 計14回	14:00～ ※イベント時を除く	催事室他	小6対象の子ども司書を卒業した中高生に読書推進リーダーとしての活躍の場を提供	登録者 26名
子ども読書週間 図書館ビンゴ	4月23日(水) ～ 5月13日(火)		図書館内	本を借りて縦横斜め1列揃えてビンゴカードを作成	70名
ボランティアのための 絵本読み聞かせ講座	4月23日 (水)	10:00～ 11:30	催事室	絵本の読み聞かせの手法や知識のボランティア初心者向け講座	24名
図書館周辺の 昆虫たち(観察会)	5月3日 (土祝)	10:00～ 11:30	催事室他	図書館周辺の昆虫を観察し図書館の本を使って昆虫の話を聞く小学生対象の観察会	大人6名 小人7名
子どものための 絵本ライブ	5月5日 (月祝)	14:00～ 14:30	おはなし ルーム	職員による子ども向け絵本の読み聞かせイベント	4名
児童書 「ふるほん市」	6月1日 (日)	9:30～ 14:30	けやき 図書室	各家庭から寄贈された古本を販売(922冊)し収益金を社会福祉協議会に寄付	126人
夏休み読み聞かせ スタンプラリー	7月5日(土) ～ 8月31日(日)		おはなし ルーム	ボランティアによるおはなし会(読み聞かせ会)	大人161名 小人188名
図書館探検隊	7月19日 (土)	14:00～ 15:00	図書館内	普段は入れない書庫やブックポスト等の裏側探検	7名
タナゴの観察会	7月27日 (日)	10:00～ 11:30	催事室他	小学生対象の図書館で飼育しているタナゴの観察会	大人11名 小人9名
絵本パズルを作ろう	7月31日 (木)	10:00～ 11:30	催事室	絵本カバーでパズルを作る小学生対象の工作イベント	大人13名 小人13名
ペーパーバッグ作り 体験	8月5日 (火)	10:00～ 11:30	催事室	絵本カバーでペーパーバッグを作る工作イベント	大人4名 小人17名
本作り体験教室	8月8日 (金)	10:00～ 11:30	催事室	小学5～6年生対象の手作りで絵本製本体験する講座	7名

子ども司書育成講座	8月～翌1月 計8回	13:00～ 16:00	図書館内	小学6年生対象の図書館業務のキャリア体験講座	9名
スカベンジャーハント	8月26日 (火)	14:00～ 15:00	図書館内	クイズ方式で図書館内の本を探し当てるゲーム	49名
読書のアニメーション研修会	8月28日 (木)	14:00～ 16:00	催事室	地域の子どもたちが、本に親しみ読書意欲を高める読書指導法に関する研修	30名
Komono 絵本マルシェ	9月15日 (月祝)	11:00～ 14:00	けやき 福祉公園	絵本カバーで作るペーパーバッグワークショップ出店	
ブックコート体験会	9月24日 (水)	10:00～ 11:30	催事室	図書館の本をカバーしている透明フィルムコート体験	8名
スカベンジャーハント	8月26日 (火)	14:00～ 15:00	図書館内	クイズ方式で図書館内の本を探し当てるゲーム	49名
読書のアニメーション研修会	8月28日 (木)	14:00～ 16:00	催事室	地域の子どもたちが、本に親しみ読書意欲を高める読書指導法に関する研修	30名
Komono 絵本マルシェ	9月15日 (月祝)	11:00～ 14:00	けやき 福祉公園	絵本カバーで作るペーパーバッグワークショップ出店	
ブックコート体験会	9月24日 (水)	10:00～ 11:30	催事室	図書館の本をカバーしている透明フィルムコート体験	8名
書庫見学会	11月9日 (日)	10:00～ 11:30	図書館内 書庫	普段は入ることのできない 図書館書庫を自由に見学	大人18名 小人7名
本の福袋	12月14日(日) ～ 12月27日(土)		図書館内	年末年始の特別貸出の枠内で福袋の本の貸出	30名(袋)
ほがらか絵本畑 しんちゃんの 「読みあそびライブ」	12月21日 (日)	10:00～ 10:40	交流 ラウンジ	小3までの子どもとその保護者を対象とした読み聞かせイベント	大人26名 小人26名
絵本かるた会	1月31日 (土)	10:30～ 11:00	催事室	かるたのように絵本の内容を読み上げ、絵札の代わりにその絵本を取り合うイベント	小人9名

本の紹介ゲーム ビブリオバトル	2月7日 (土)	13:00～ 16:30	催事室	5分間で発表者が本を紹介し、決勝戦で観覧者が読みたくなった本を投票	発表者 12名 観覧者 43名
読書旅行 多読表彰式	3月15日 (日)	10:00～ 10:30	催事室	小中各部門で最も多く本を読んだ児童生徒を表彰	表彰者 4名
こどものための！ DVD 上映会	3月28日 (土)	10:15～ 11:30	催事室	子ども向けのアニメ映画の上映会	大人3名 小人4名

イ) 催事室利用状況

開催日または期間	行 事 名	主 催 者 名
4月6日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
4月19日(土)	みつけ総会	菰野町図書館
4月23日(水)	ボランティアのための絵本読み聞かせ講座	菰野町図書館
4月25日(金)	こもりぶサポーター会議	菰野町図書館
5月3日(土)	図書館周辺の昆虫たち	菰野町図書館
5月4日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
	ボードゲーム大全	菰野町図書館
5月23日(金)	こもりぶサポーター会議	菰野町図書館
6月1日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
6月13日(金)	図書ボランティア交流会	菰野町図書館
7月4日(金)～6日(日)	写真展	桜合同写真展
7月6日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
7月19日(土)	図書館探検隊	菰野町図書館
7月27日(日)	タナゴの観察会	菰野町図書館
7月29日(火)	こもりぶ作業日	菰野町図書館
7月31日(木)	絵本パズルを作ろう	菰野町図書館
8月3日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
8月5日(火)	ペーパーバッグ作り体験	菰野町図書館
8月8日(金)	本づくり体験教室	菰野町図書館
8月10日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
8月28日(木)	アニメーション研修会	菰野町図書館
8月31日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館

9月 6日(土)	講演会	森の風こども園
9月 7日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
9月 21日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
9月 24日(水)	ブックコート体験会	菰野町図書館
9月 28日(日)	プロギング後のミニ講演	コミュニティ振興課
10月 4日(土)	リサイクルフェア	菰野町図書館
10月 5日(日)	ボードゲームイベント	菰野町図書館
10月 12日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
10月 26日(日)	文化遺産講座	コミュニティ振興課
10月 31日(金)	図書館協議会	菰野町図書館
11月 2日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
11月 3日(月祝)	講演会	コミュニティ振興課
11月 8日(土)	アチラとコチラ	アチラとコチラ実行委員会
11月 9日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
11月 14日(金)～16日(日)	書道作品展示	花墨会
11月 30日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
12月 7日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
12月 21日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
1月 11日(日)	子ども司書育成事業	菰野町図書館
1月 31日(土)	絵本かるた会	菰野町図書館
2月 1日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
2月 7日(土)	ビブリオバトル 2026	菰野町図書館
2月 14日(土)	みつけ会議	菰野町図書館
2月 26日(木)	図書館協議会	菰野町図書館
2月 27日(金)	古文書教室	コミュニティ振興課
3月 1日(日)	リトルライブラリアン	菰野町図書館
3月 15日(日)	読書旅行多読表彰式	菰野町図書館
3月 24日(火)	普通救命講習会(職員対象)	菰野町図書館
3月 28日(土)	DVD 上映会	菰野町図書館

ウ) ギャラリー利用状況

開催日または期間	行 事 名	主 催 者 名
4月26日(土)～5月1日(木)	写真展示	こもんまカフェ 森沢 歩
6月7日(土)～11日(水)	写真展示とパネル展示	こもの国民平和大行進 実行委員会
6月12日(木)～7月1日(火)	トレイルランニング写真展示	コミュニティ振興課
7月4日(金)～13日(日)	アート作品展示	齋藤 仁美
7月15日(火)～21日(月祝)	イラスト展示	増田 木綿子
7月23日(水)～8月20日(水)	平和祈念展(パネル展示)	菰野町総務課 菰野町図書館
7月26日(土)	民話語り	真菰の会
8月23日(土)	民話語り	菰野菊
9月3日(水)～11日(木)	救急ポスターコンクール作品展示	菰野町消防署
9月13日(土)～15日(月祝)	手づくり民話絵本コンクール作品展示	コミュニティ振興課
9月16日(火)～28日(日)	貯金箱コンクール in 菰野町	菰野郵便局
10月1日(水)～10日(金)	ペーパークラフト作品展示	上野 勝美
10月21日(火)～26日(日)	アート作品展示	齋藤 仁美
10月30日(木)～11月4日(火)	健康ポスターコンクール/ 社会を明るくする運動ポスター展	健康福祉課
11月11日(火)～16日(日)	イラスト展示	増田 木綿子
11月16日(日)～11月30日(日)	人生会議ポスター展示	アチラとコチラ実行委員会
1月11日(日)	子ども司書のおはなし会	菰野町図書館
1月11日(日)～13日(火)	全国孔版画愛好者による年賀状展	大羽根園孔版画同好会
	新春俳句展	大羽根俳句同好会
1月23日(金)～2月3日(火)	トレイルランニング写真展	コミュニティ振興課
3月22日(日)	菰野町図書館と四日市工業高校による 読書推進プロジェクト 移動式本棚お披露目会	菰野町図書館
3月28日(土)	民話語り合同会	真菰の会・菰野菊

エ) 令和 7 年度図書館貸出等の状況

開館日数	296 日	新規登録者	1,280 人
貸出人数	130,874 人	貸出冊数	397,305 冊
購入冊数	3,205 冊	受入冊数	6,305 冊
登録者数	28,632 人	累計購入冊数	130,647 冊
蔵書冊数	204,262 冊	※ 蔵書冊数…図書資料、A V 資料、雑誌の総数	

オ) 研修等受入れ実績

① 職場体験学習

受 入 日	摘 要	参加者数
5 月 13 日 (火) ～15 日 (木)	菰野町立八風中学校 2 年生	4 名
5 月 14 日 (水) ～16 日 (金)	四日市市立三滝中学校 2 年生	4 名
6 月 4 日 (水) ～ 6 日 (金)	四日市市立桜中学校 2 年生	3 名
9 月 24 日 (水) ～26 日 (金)	菰野町立菰野中学校 2 年生	6 名

② 各種研修・視察

受 入 日	摘 要	参加者数
7 月 10 日 (木)・11 日 (金)	三重県立四日市高等学校 教員社会体験研修	1 名
7 月 23 日 (水)・24 日 (木)	菰野町立菰野小学校 教員社会体験研修	2 名
8 月 5 日 (火)・6 日 (水)	菰野町立八風中学校 教員社会体験研修	1 名

③ 社会見学・施設見学

受 入 日	摘 要
5 月 22 日 (木)	菰野町立朝上小学校 3 年生社会見学
10 月 2 日 (木)	菰野町立千種小学校 3 年生社会見学
10 月 17 日 (金)	菰野町立竹永小学校 3 年生社会見学
11 月 4 日 (火)	菰野町立鶴川原小学校 3 年生社会見学
11 月 12 日 (水)	菰野町立菰野小学校 3 年生社会見学

④ 町内小中学校図書室巡回

巡回先図書室名	回 数	巡回先図書室名	回 数
菰野町立菰野小学校	24 回	菰野町立菰野中学校	19 回
菰野町立鶴川原小学校	21 回	菰野町立八風中学校	22 回
菰野町立竹永小学校	24 回	小学校 計	112 回
菰野町立朝上小学校	22 回	中学校 計	41 回
菰野町立千種小学校	21 回	総合計	153 回

⑤ 学校授業支援

支 援 日		支 援 校 名	内 容
4 月 18 日 (金)		菰野町立朝上小学校	1 年生 オリエンテーション
4 月 24 日 (木)、30 日 (水)、5 月 1 日 (木)		菰野町立菰野小学校	
5 月 8 日 (木)		菰野町立竹永小学校	
6 月 6 日 (金)		菰野町立鶴川原小学校	2 年生 オリエンテーション
5 月 7 日 (水)、14 日 (水)		菰野町立菰野小学校	3 年生 オリエンテーション
5 月 20 日 (火)		菰野町立竹永小学校	
6 月 3 日 (火)		菰野町立竹永小学校	4 年生 オリエンテーション ① (分類について)
4 月 25 日 (金)		菰野町立鶴川原小学校	5 年生 オリエンテーション ② (百科分類について)
5 月 8 日 (木)、9 日 (金)		菰野町立八風中学校	1 年生 オリエンテーション
1 回目	10 月 8 日 (水)、9 日 (木)	菰野町立八風中学校	2 年生ビブリオバトル
2 回目	10 月 22 日 (水)、23 日 (木)		
1 回目	10 月 8 日 (水)、9 日 (木)	菰野町立菰野小学校	3 年生ビブリオバトル
2 回目	10 月 22 日 (水)、23 日 (木)		

⑥ 蔵書点検支援

支援先図書室名	回 数	支援先図書室名	回 数
菰野町立鶴川原小学校	1 回	菰野町立千種小学校	1 回
菰野町立竹永小学校	1 回	菰野町立八風中学校	1 回

⑦ 町内施設絵本修理作業

支 援 先 施 設 名	回 数	支 援 先 施 設 名	回 数
菰野町立菰野こども園	10 回	菰野町立鶴川原こども園	9 回
菰野町立菰野西こども園	1 回	菰野町立竹永保育園	7 回
菰野町立菰野東こども園	5 回	菰野町立朝上こども園	10 回

⑧ その他

ブックトーク

支 援 日	対象学年	支 援 校 名	内 容
10 月 22 日 (水)	4 年生	菰野町立朝上小学校	新見南吉の世界へ ようこそ
10 月 22 日 (水)、24 日 (金)		菰野町立菰野小学校	

図書委員会

開 催 日	学 校 名	内 容
9 月 8 日（月）	菰野町立菰野小学校	ブックバイキング
1 月 19 日（月）	菰野町立千種小学校	ビブリオバトル

【評価と今後の方向性】

1. 事業の評価

・図書資料の充実と利用状況

計画的な資料収集により、蔵書数は開館当初から目途としていた 20 万冊に達した（20 万 4 千冊）。図書開架室の入場者数は開館 18 年間で延べ 501 万人に上り、館全体の年間入館者数も 27 万人を超えるなど、地域の生涯学習拠点として安定した利用が続いている。

・DX 推進によるサービス拡充

非来館型サービス「こもの電子図書館」は 3 年目を迎え、コンテンツ数は 842 点に増加した。高齢者や障がい者を含む多様な住民が利用しやすい環境整備が進んでいる。

・学校図書室への支援体制の強化

「第 3 次菰野町図書館整備基本計画」に基づき、図書館司書による学校図書巡回支援を継続して実施した。担当教諭や地域ボランティア『こもりぶサポーター』との連携により、図書室環境の整備やブックトーク等の読書支援が着実に進展している。

・子どもによる図書館活動の推進

小学 6 年生の『子ども司書』に加え、元子ども司書の中高生による『リトルライブラリアン』を組織化し、子ども自身の視点による本の紹介やイベント協力など、主体的な参画が広がっている。

・利便性向上のためのサービス継続

休館日は毎週月曜日（祝日の場合は開館）と第 4 火曜日、年末年始、蔵書点検期間としている。また、北部子育て支援センターでの貸出申込・返却受付を継続し、遠隔地におけるサービス提供の利便性向上に寄与している。

2. 今後の方向性

・図書資料のさらなる充実

利用者ニーズを踏まえた資料収集を継続し、地域の学習・情報拠点としての機能を強化する。

・DX を活用したサービスの拡大

電子図書館のコンテンツ拡充や利用促進を図り、来館が難しい住民にも継続的に情報アクセスを提供する。

- ・学校図書室支援の深化
巡回支援を継続し、教職員や地域ボランティアとの連携を強化することで、児童生徒の読書意欲向上と図書室環境の改善を進める。
- ・子ども主体の読書活動の推進
『子ども司書』『リトルライブラリアン』の活動を継続・発展させ、子どもが主体的に図書館運営に関わる機会を広げる。
- ・利用しやすい施設運営の継続
休館日運用や遠隔地サービスの維持に努め、誰もが利用しやすい生涯学習拠点としての機能を高める。

IV 評価者の意見

1 学校教育事業

- ・「菰野町授業づくりマスター」を活用した授業改善の取組は、経験年数に関わらず教職員が共通した視点を持って授業づくりを進めることにつながる有効な取組である。学力調査の結果も踏まえながら、算数科及び国語科における少人数指導など、児童生徒の学力向上につながる取組がさらに広がることを期待する。
- ・ICT教育について、ICT支援員を配置するなど、教職員を支援する体制が整えられている。ICT機器の活用に加え、今後は生成AIについても、その利便性だけでなく、児童生徒が自ら考えることの重要性を踏まえ、教育現場における適切な活用のあり方について検討していくことが必要である。
- ・不登校対策について、菰野ふれあい教室に加え、八風ふれあい教室を設置し、児童生徒の居場所や学習機会の確保に取り組んでいることは評価できる。八風ふれあい教室については、施設利用上の制約もあるが、豊かな自然環境という特色を活かしながら、菰野ふれあい教室とともに、それぞれの特徴を活かした支援を進めてもらいたい。また、不登校児童生徒数が減少している中、レジリエンス教育についても一定の効果が期待されることから、継続的にデータを蓄積し、不登校児童生徒数の減少との関連性を含め、長期的な視点で取組の効果を検証していくことが望まれる。
- ・健康教育について、近年、若年層を取り巻く薬物の状況も変化していることから、学校での薬物乱用防止教育を引き続き進めるとともに、必要に応じて保護司会や警察などの関係機関とも連携し、社会の変化に応じた教育を進めてもらいたい。
- ・水泳の授業について、気候の変化や教職員の負担、学校プールの維持管理など、様々な課題がある中でも、児童生徒が水泳を体験し、学ぶ機会を確保することは重要である。民間施設の活用については、移動手段や施設の受入能力、費用などの課題を踏まえながら、今後のあり方について検討してもらいたい。
- ・「地域とともにある学校づくり」について、コミュニティ・スクールをはじめとした取組が進められている一方、コロナ禍を経て、学校と地域団体との交流の機会が減少していることが懸念される。地域の高齢者や各種団体との交流は、児童生徒にとって地域を知り、多様な世代と関わる貴重な機会であることから、これまでのつながりを再構築し、地域の実情に応じた交流活動を進めていくことを期待する。
- ・教職員の資質向上について、教員の確保が課題となる中、教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を高める取組を継続することが重要である。また、不祥事の未然防止という観点からも、研修だけでなく、教職員の勤務環境や心身の負担にも配慮しながら、働きやすい職場環境づくりと人材確保に継続して取り組んでももらいたい。

2 社会教育及び図書館事業

- ・よもやま歴史教室は、多くの参加者が熱心に受講しており、生涯にわたって学び続けることのできる有意義な取組である。今後は、参加者の意見を活かした講座づくりに加え、講座の配信や地域へ出向いて開催するなど、開催方法や場所を工夫し、居住地域や移動手段にかかわらず、より多くの町民が学習できる機会の充実を期待する。
- ・図書館事業で、北部子育て支援センターでの図書の受け取りなど、図書館から離れた地域でも利用できる取組の周知と充実を図り、地域によって利用機会に差が生じないよう努めてもらいたい。また、「子ども司書」の取組については、子どもたちが本について学ぶだけでなく、学んだことを実際の活動を通して発信する機会となっており、非常に有意義な取組である。知識を得るだけでなく、それを活用し、他者に伝える経験は、将来のキャリア形成にもつながることから、今後も継続、発展していくことを期待する。